

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ
大月市内小中学校の状況について

大月市教育委員会

4月17日に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は小学校6年生と中学校3年生の国語と算数・数学のそれぞれ基礎的な知識を問うA問題、その活用力を問うB問題、そして3年ぶりに理科の基礎的な知識、活用力を問う問題及び学習状況が対象でした。

大月市教育委員会ではその調査結果を分析しましたのでお知らせします。また市内各校では、自校の結果を分析し、指導方法の改善等を行っています。更に調査を受けた児童生徒とその保護者の皆様には、個々の良いところや課題点、努力点等を説明し、今後の学力向上に向けて家庭との連携を図るように努めています。

1. 大月市の子どもたち（小学校6年生・中学校3年生）の学力・学習状況について

		市内小学校の平均正答率	市内中学校の平均正答率
国語	A【主として知識】	県をやや下回る	県とほぼ同等
	B【主として活用】	県とほぼ同等	県とほぼ同等
算数 数学	A【主として知識】	県とほぼ同等	県とほぼ同等
	B【主として活用】	県とほぼ同等	県とほぼ同等
理科		県とほぼ同等	県とほぼ同等

※ 「県平均とほぼ同等」という根拠 …… 文部科学省では、平均正答率との差±5%を微差とし、「±5%は、ほぼ同等を意味する」としているの、それに従って表記しています。

小学校6年生の国語の調査は「話す・聞く」「書く」「読む」「伝統的な言語文化と国語の特質」の4領域に分かれています。県の平均正答率と比較すると、国語Aは「話す・聞く」「書く」「読む」において県とほぼ同等で、「伝統的な言語文化と国語の特質」が下回っています。「敬語の使い方」や「漢字の書きとり」の正答率が低くなっています。国語Bは「話す・聞く」では県とほぼ同等で、「書く」「読む」は県平均より低くなっています。「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」について平均正答率が県より下回っています。算数の調査は「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域に分かれています。算数ABともにすべての領域で県とほぼ同等となっています。理科は、学習指導要領の4区分である「物質」「エネルギー」「生命」「地球」のそれぞれで県とほぼ同等となっています。



中学校3年生の国語の調査は小学校と同様に「話す・聞く」「書く」「読む」「伝統的な言語文化と国語の特質」の4領域に分かれています。県平均正答率と比較すると、国語A「話す・聞く」「書く」「読む」ではほぼ同等で「伝統的な言語文化と国語の特質」では上回っています。国語Bにおいては、4領域す

べてで県平均とほぼ同等です。数学の調査は「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域に分かれています。数学 AB ともに4領域すべてで県平均正答率とほぼ同等となっています。理科は、学習指導要領の分野が「物理的領域」「化学的領域」「生物的領域」「地学的領域」の4分野であり、そのすべてが県平均正答率とほぼ同等となっています。

小学校の無回答率(設問に対して無回答の児童生徒の比率)は、国語 B、算数 A、B、理科で県平均とほぼ同等となっています。ただ、設問別にみると、国語 B では「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」において記述で回答を求めるところの無回答率は県平均より有意に高くなっています。算数 A では、図形やグラフ、百分率に関する設問に対する無回答率が県平均より高く、グラフや百分率に関する設問の正答率も県平均より低くなっています。算数 B では、設問の意図を理解したうえで根拠を明確にして記述する設問で無回答率が高くなっています。理科では16問中9問が無回答率0%です。国語 A では、「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」と「学年別配当漢字表に示されている漢字を文の中で正しく使う」という設問で無回答率が県平均より高くなっています。おおむね無回答率が県平均よりも高い場合は、平均正答率は県平均を下回っています。

中学校では、国語 AB、数学 AB、理科のすべてにおいて、無回答率は県平均とほぼ同等です。特に国語 B では、9の設問のうち5問で無回答率0%、数学 A では20の設問のうち、7問で無回答率0%、理科では27の設問のうち11問で無回答率0%です。小学校でもそうでしたが、中学校でも最後まで



あきらめないで問題に向かう姿勢を子どもたちの多くがもっていることがわかります。中学校で顕著に県平均より無回答率が低かったのは、国語 A の「文脈に即して漢字を正しく書く」という出題で、無回答率が低いのと合わせて正答率は県平均より有意に高くなっています。また「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」という出題の正答率も県平均を大きく上回っています。

国語、算数・数学では、選択式や短答式の問題に比べて記述式においては、すべての問題で無回答者がいることから、市内の小学校6年生と中学校3年生は、記述式解答に苦手傾向があることがわかります。(これは県内・全国的にも同様の傾向です)ただし、理科の記述式の2問中1問は無回答者が0でした。

(1) 授業では課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいたか

そう思う	小学校	55人	34.2%	中学校	52人	29.2%
どちらかといえば、そう思う		76人	47.2%		83人	46.6%
どちらかといえば、そう思わない		27人	16.8%		34人	19.1%
そう思わない		3人	1.9%		9人	5.1%
合計		161人			178人	

(2) 授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しているか

そう思う	小学校	45人	28.0%	中学校	32人	18.0%
どちらかといえば、そう思う		79人	49.1%		82人	46.1%
どちらかといえば、そう思わない		29人	18.0%		46人	25.8%
そう思わない		8人	5.0%		18人	10.1%
合計		161人			178人	

(3) 学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができるか

そう思う	小 学 校	65人	40.4%	中 学 校	62人	34.8%
どちらかといえば、そう思う		66人	41.0%		73人	41.0%
どちらかといえば、そう思わない		23人	14.3%		32人	18.0%
そう思わない		7人	4.3%		11人	6.2%
合計		161人			178人	

子どもたちの授業にかかわる意識調査を見ると、「(1)授業では課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいたか」という質問については、小学校では81.4%の児童が、中学校では75.8%の生徒が肯定的に回答していました。これは県平均とほぼ同等で、本市の子どもたちの多くが意欲的に学習に取り組む姿がうかがえます。しかし、一方で小学校の20%の児童、中学校の25%の生徒が否定的に回答している事実から、なお「学び方」を獲得させ、学習することの面白さや楽しさを教え、意欲の涵養を図る必要があります。また、「(2)授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しているか」という質問に対しては、小学校では77.1%の児童が肯定的に回答し、その割合は県平均を上回っています。中学校では64.1%の生徒が肯定的に回答し、県平均とはほぼ同等ではあるものの、全国平均よりは上回っています。自分の考えを相手に正確に分かりやすく伝えるために資料等を使い、話の論理的な筋道を意識して発表していることが分かります。さらに「(3)学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができるか」の質問に対しては小学校では、81.4%の児童が、中学校では75.8%の生徒が肯定的に回答しています。これはともに県平均とほぼ同等です。



この3問は、小中学校の現行学習指導要領及び2020年度小学校で、2021年度中学校で順次改訂される新学習指導要領の根幹を問うものです。「課題解決のために必要な情報を集める」「目的や意図に応じて内容を整理し把握する」「理由を明確にして、論理的に分かりやすく説明する」「自分の考えを広げ深め、話し合い等の共同作業を行うことで、最適解を求める」等々の力を、なお高めていくことが求められています。

2. 大月市の子どもたち（小学校6年生・中学校3年生）の生活状況について

(1) 朝食を毎日食べているか

毎日食べている	小 学 校	138人	85.7%	中 学 校	134人	75.3%
ほとんど食べている		19人	11.8%		29人	16.3%
食べない日もかなりある		3人	1.9%		6人	3.4%
食べていない		1人	0.6%		9人	5.1%
合計		161人			178人	

(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ているか

毎日同じ時刻に寝ている	小学校	63人	39.1%	中学校	71人	39.9%
同じ時刻に寝ていることが多い		71人	44.1%		59人	33.1%
あまり同じ時刻ではない		22人	13.7%		38人	21.3%
同じ時刻ではない		5人	3.1%		10人	5.6%
合計		161人			178人	

(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きているか

毎日同じ時刻に起きている	小学校	104人	64.8%	中学校	103人	57.9%
同じ時刻に起きていることが多い		44人	27.3%		58人	32.6%
あまり同じ時刻ではない		10人	6.2%		14人	7.9%
同じ時刻ではない		3人	1.9%		3人	1.7%
合計		161人			178人	

「朝食」「就寝時刻」「起床時刻」については基本的な生活習慣の中心的なところですが、市内小学校6年生と中学校3年生は、ほぼ生活リズムが確立され、良好な状況といえます。この傾向は、この調査においては長年継続していて、本市の子どもたちの良さであり、崩れないことを願うところです。特に



小学校6年生の97.5%、中学校3年生の91.6%が朝食をとっていますので、全体的に活力ある学校生活を送ることができています。朝食をとることと学力には相関関係があることが、この学力・学習状況調査で証明されているので、この先も朝食を食べる割合を高い水準で維持したいところです。就寝時刻については不規則な様子もうかがえますが、成長期の子どもたちですので、十分に良質な睡眠が確保され、規則正しい生活を送ることができることを望んでいます。

(4) 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があるか

興味がある	小学校	47人	29.2%	中学校	43人	24.2%
どちらかといえば興味がある		70人	43.5%		78人	43.8%
どちらかといえば興味がない		39人	24.2%		45人	25.3%
興味がない		5人	3.1%		12人	6.7%
合計		161人			178人	

(5) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか

考えることがある	小学校	28人	17.4%	中学校	25人	14.0%
どちらかといえばある		55人	34.2%		49人	27.5%
あまりない		57人	35.4%		70人	39.3%
考えることがない		21人	13.0%		34人	19.1%
合計		161人			178人	

「(4)地域や社会で起こっている問題や出来事に興味があるか」という質問に対しては、小学校では72.7%の児童が、中学校では68%の生徒が肯定的な回答をしています。これは県平均とほぼ同等ですが、全国平均をかなり上回っています。地域に目を向け、地域を大切に、地域から学ぶ、といった

本市の「ふるさと教育」が大きな契機となっていると考えます。しかし、一方で「(5)地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか」という問いには、肯定的な回答は小学校で51.6%、中学校で41.5%にとどまっています。これは県平均とほぼ同等ですが、これからは「ふるさと教育」の上に、生まれ育った故郷をよりよくするためにどうするか、自分は何ができるかといった視点を子どもたちにもたせる必要があります。それは学校や家庭を中心にして、子どもたちにかかわるすべての関係団体の課題となるものです。

(6) 学校の規則を守っているか

守っている	小 学 校	87人	54.0%	中 学 校	115人	64.6%
どちらかといえば守っている		68人	42.2%		48人	27.0%
あまり守っていない		5人	3.1%		11人	6.2%
守っていない		1人	0.8%		4人	2.2%
合計		161人			178人	

(7) いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか

いけない	小 学 校	151人	93.8%	中 学 校	141人	79.2%
どちらかといえばいけない		10人	6.2%		29人	16.3%
どちらかといえばそんなことはない		0人	0%		4人	2.2%
そんなことはない		0人	0%		4人	2.2%
合計		161人			178人	

規則遵守や他者を大切にするという側面でも、本市の子どもたちは良好な傾向を示しています。「(6)学校の規則を守っている」という小学生は96.2%であり、県・全国平均を上回っています。中学生は91.6%であって県平均とほぼ同等であって、本市の子どもたちは健全な学校生活を送っていることがうかがえます。また、「いじめ」への意識では、例年と同様で、望ましい傾向を示しています。「(7)いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」という問いに対して中学校では県平均とほぼ同等の95.5%が「いけない」と回答し、小学校では100%の児童がいけないことだと認識しています。小学校の値は県平均・全国平均を上回っています。これらのことは特筆できることで、これまでの学校・家庭・地域の意図的・計画的な指導ばかりでなく、日常のあらゆる場所であらゆる機会をとらえて、あらゆる人々が、あらゆる形で指導してきた賜物だと確信できます。今後もこのことの指導は丹念にきちんと継続していくべきものです。



(8) 自分には、よいところがあると思うか

ある	小 学 校	64人	39.8%	中 学 校	71人	39.9%
どちらかといえばある		70人	43.5%		81人	45.5%
あまりない		24人	14.9%		18人	10.1%
ない		3人	1.9%		8人	4.5%
合計		161人			178人	

(9) 人の役に立つ人間になりたいか

そう思う	小 学 校	135人	83.9%	中 学 校	125人	70.2%
どちらかといえばそう思う		20人	12.4%		48人	27.0%
あまりそうは思わない		3人	1.9%		5人	2.8%
そうは思わない		3人	1.9%		0人	0%
合計		161人			178人	

(10) 将来の夢や目標をもっているか

もっている	小 学 校	124人	77.0%	中 学 校	84人	47.2%
どちらかといえばもっている		25人	15.5%		46人	25.8%
どちらかといえばもっていない		5人	3.1%		31人	17.4%
もっていない		7人	4.3%		17人	9.6%
合計		161人			178人	

自尊感情や自己肯定感をもつことは、自信につながり、安定した生活を送ったり学習への意欲をもったりするためには、不可欠のことです。「(8)自分には、よいと思うところがあるか」という質問に対して、小学校6年生は83.3%、中学校3年生は85.4%が肯定的に回答しています。これは県平均ともほぼ同等の値ですが、約15%の子どもたちに自己肯定の意識が低いことは、子どもたちにかかわるすべての大人たちの課題です。また、自己肯定は、「利他」の意識にもつながっていきます。「(9)人の役に立つ人間になりたいか」という質問に対しては、小学校6年生の96.3%、中学校3年生の97.2%が肯定的に回答し、小学校6年生は「そう思う」と最も肯定的に回答した率は、県や全国平均を上回っています。また、中学3年生では、「そうは思わない」と最も否定的に回答した割合は0%でした。



生きていくための目標や意欲を確かめる「(10)将来の夢や目標をもっているか」という質問に対して、小学校6年生では92.5%が、中学校3年生では73%が肯定的に回答しています。発達段階を考



えると中学校の値が低くなることは予想できることですが、それでも県平均とはほぼ同等です。全国とも変わらない値です。本市の小学生は「もっている」と最も肯定的に回答した割合が、県や全国平均を大きく上回っています。素直に夢や目標をもつことができ、それを応援してくれる家庭・学校・地域で安定した教育環境が用意されていることが浮かび上がってきます。

これからの社会においては、個々の存在を認め合い、支え合うと同時に、周囲と良好な人間関係を構築することが求められています。これらの回答から受け取れる前向きな意識を、具体的な「行動」に結びつけることができるように、日頃から「私はこう思う、こうしたい」という主体的な意識や姿勢を、なお一層培うことが期待されます。

(11) 月～金曜日の1日あたりの勉強時間（塾・家庭教師を含む）

全くしない	小学校	3人	1.9%	中学校	4人	2.2%
30分より少ない		10人	6.2%		15人	8.4%
30分～1時間		44人	27.3%		44人	24.7%
1時間～2時間		64人	39.8%		55人	30.9%
2時間～3時間		25人	15.5%		40人	22.5%
3時間以上		15人	9.3%		20人	11.2%
合計		161人			178人	

(12) 月～金曜日の1日あたりの読書時間（教科書や参考書・漫画や雑誌は除く）

全くしない	小学校	22人	13.7%	中学校	54人	30.3%
10分より少ない		14人	8.7%		13人	7.3%
10分～30分		45人	28.0%		41人	23.0%
30分～1時間		41人	25.5%		39人	21.9%
1時間～2時間		29人	18.0%		14人	7.9%
2時間以上		10人	6.2%		17人	9.6%
合計		161人			178人	



(13) 家で宿題をしているか

している	小学校	145人	90.1%	中学校	123人	69.1%
どちらかといえばしている		10人	6.2%		40人	22.5%
あまりしていない		3人	1.9%		9人	5.1%
全くしていない		3人	1.9%		6人	3.4%
合計		161人			178人	

(14) 家で計画的に学習しているか

計画的にしている	小学校	60人	37.3%	中学校	30人	16.9%
どちらかといえば計画的		61人	37.9%		72人	40.4%
あまり計画的でない		34人	21.1%		58人	32.6%
全く計画的でない		6人	3.7%		18人	10.1%
合計		161人			178人	

(15) 家で予習・復習をするか

している	小 学 校	50人	31.1%	中 学 校	47人	26.4%
どちらかといえばしている		56人	34.8%		65人	36.5%
あまりしていない		46人	28.6%		47人	26.4%
全くしていない		9人	5.6%		19人	10.7%
合計		161人			178人	

(16) 新聞を読んでいるか

ほぼ毎日読んでいる	小 学 校	9人	5.6%	中 学 校	6人	3.4%
週に1から3回程度読んでいる		33人	20.5%		22人	12.4%
月に1から3回程度読んでいる		63人	39.1%		36人	20.2%
ほとんど、または全く読まない		56人	34.8%		114人	64.0%
合計		161人			178人	

月～金曜日の1日の勉強時間では、小学校6年生は県と同様に「1時間～2時間」の勉強時間が最も多く、次に多い「30分～1時間」の勉強時間とともに、その割合は全国平均より高くなっています。3時間以上勉強している児童の割合は、県平均より多く全国平均より少なくなっています。中学校3年生は、どの項目も県平均とほぼ同等ですが、「30分～1時間」は県や全国平均より高い傾向にあり、「1時間～2時間」の勉強時間の割合は県や全国平均より低い傾向になっています。机には向かっている、勉強する時間が若干少ない傾向があります。



月～金曜日の1日あたりの読書時間は、小学校6年生は、「まったく読まない」や「10分より少ない」の割合は県や全国平均より低く、他のどの項目も県や全国の割合より高く、特に「1時間～2時間」程度読んでいる児童の割合は県や全国よりも有意に高くなっています。本市の小学校6年生は読書習慣がある子どもの比率が高いことが分かります。中学校3年生は、すべての時間帯で県や全国の割合とほぼ同等です。多忙な中学生ですが、読書習慣は一生の財産となるので、読書意欲を高めていく取組をさらに進めたいところです。

また「家で宿題をしているか」は、本市の小学校6年生は、96.3%が肯定的な回答をしています。中学校3年生は、91.6%が肯定的な回答をしており、ともに県平均と同等です。「計画的に学習しているか」は、小学校6年生の75.2%、中学校3年生の57.3%が肯定的な回答で、ともに県平均とはほぼ同等であるものの、全国平均よりは高くなっています。「家で授業の予習・復習をするか」という質問に対しても、小学校6年生の65.9%が肯定的な回答をしています。全国平均よりは高く、県平均よりはわずかに低い値です。中学校3年生の62.9%は肯定的な回答をしています。これは県平均とほぼ同等ですが、全国平均を大きく上回っています。これはここ数年取り組まれている県及び本市の「家庭学習推進」の成果の表れです。子どもたちの学力を定着させるためには「予習・復習」は大きな役割を果たしていると言われていいますので、この良好な状況を継続し、さらに定着を図っていきたいと考えます。このように小学校6年生、中学校3年生の家庭における勉強時間はここ数年で全体的に改善しています。

また、文部科学省の分析によると、「新聞を読む頻度が高い子どもの方が、平均正答率が高い」という結果が報告されました。本市の子どもたちは、新聞をほとんど、または全く読んでいない小学校6年生

が34.8%でした。小学校6年生の県平均は56.3%、全国平均は60.9%なので、本市の6年生は新聞を手にとることが多いことが分かります。中学校3年生の新聞をほとんど、または全く読んでいない割合は64%で、県平均とほぼ同等であるものの、全国平均よりは低い結果となりました。新聞は、読解力、情報収集力、分析力、説明力、思考力、表現力等を培うのに格好の素材であり、今後工夫を加え、学力向上のための良い教材としていく必要があります。



3. 今後の取組のために

今年も、例年と同様に大月市の児童生徒の生活習慣や学習状況・学習環境は、県や全国と比較してみてもほぼ良好な状況にあります。本市の子どもたちが学力・学習状況及び生活状況において、県平均や全国平均を上回っていた点のみをもう一度整理してみます。

<学力・学習状況>

- ① 中学校3年生の国語Aの「伝統的な言語文化と国語の特質」では平均正答率が県を上回っています。とりわけ、「文脈に即して漢字を正しく書く」という出題では無回答率が低いのと合わせて正答率は県平均を上回っています。
- ② 「授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しているか」という質問に対しては、小学校6年生では77.1%の児童が肯定的に回答し、その割合は県平均を有意に上回っています。中学校では64.1%の生徒が肯定的に回答し、県平均とはほぼ同等ですが、全国平均よりは上回っています。

<生活状況>

- ① 「地域や社会で起きている問題や出来事に関心があるか」という質問に対しては、小学校6年生では72.7%の児童が、中学校3年生では68%の生徒が肯定的な回答をしています。これは県平均とほぼ同等ですが、全国平均をかなり上回っています。
- ② 「学校の規則を守っている」という小学校6年生は96.2%であり、県平均や全国平均を上回っています。「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」という問いに対して、小学校6年生の100%がいけないことだと認識しており、これは県平均・全国平均を上回っています。
- ③ 「人の役に立つ人間になりたいか」という質問に対しては、小学校6年生の96.3%、中学校3年生の97.2%が肯定的に回答し、小学校6年生は「そう思う」ともっとも肯定的に回答した割合は、県や全国平均を上回っています。また、中学校3年生では「そうは思わない」と最も否定的に回答した割合は0%でした。
- ④ 「将来の夢や目標をもっているか」という問いに対して、小学校6年生は「もっている」と最も肯定的に回答した割合が県・全国平均を大きく上回っています。
- ⑤ 平日の一日の勉強時間では、小学校6年生は県と同様に「1時間～2時間」の勉強時間が最も多く、次に多い「30分～1時間」の勉強時間とともに、その割合は全国平均より高くなっています。3時間以上勉強している割合は、全国平均よりは少ないものの、県平均よりは高くなっています。
- ⑥ 平日の1日当たりの読書時間は、小学校6年生は「全く読まない」や「10分より少ない」の割合は県・全国平均より低く、他のどの項目における読書時間も県や全国平均よりは高く、特に「1時間～2時間」程度読んでいる割合は、県や全国平均よりかなり高くなっています。

- ⑦ 家庭で「計画的に学習しているか」は、小学校6年生の75.2%、中学校3年生の57.3%が肯定的な回答で、ともに県平均とはほぼ同等であるものの、全国平均よりは高くなっています。「家で授業の予習・復習をするか」という質問に対しても小学校6年生の65.9%が肯定的な回答をしていますが、これは県平均とはほぼ同等ですが、全国平均よりは高くなっています。また、中学校3年生は62.9%が肯定的な回答をしています。これは県平均とはほぼ同等ですが、全国平均を大きく上回っています。
- ⑧ 「新聞をほとんど、まったく読まない」割合は小学校6年生が34.8%、中学校3年生が64%でした。小学校6年生の県・全国平均よりはずっとその割合が少なくなっています。中学校3年生の割合は高いものの、それでも全国平均よりは低くなってきています。

学力・学習状況では、中学校国語において、言語にかかわる基礎的な知識の習得が進んでいることが分かります。また、自分の考えを論理的に資料等を工夫して示しながら発表する力は今の時代が要請している力ですが、その力を意欲的に培おうとする本市の子どもたちの状況が見えています。生活状況では、地域や社会に関心があるという割合が全国平均をかなり上回っており、ここ数年本市が進めてきた「ふるさと教育」の成果の表れの一つだと感じます。また、「学校の規則を守る」とか「いじめはどんな理由があってもいけないこと」として割合が高く、学校における集団生活の規律維持や望ましい人間関係の構築といった面で本市の児童生徒は健全であることが分かります。さらに、「将来の夢や希望をもっている」児童の割合が県や全国平均を大きく上回っていることや「人の役に立ちたいとする」項目でも肯定的な回答をする児童生徒が県や全国平均を上回っていることから、本市の児童生徒が、人としてまっすぐに育っていることがうかがえ、たいへん喜ばしいことです。



さらに、小学校6年生の平日1日の勉強時間や読書時間も県・全国平均とほぼ同等もしくは上回っている点や、「計画的に学習している」「家で授業の予習や復習をしている」小学校6年生、中学校3年生の割合も県・全国平均とほぼ同等であるか上回っている点から、ここ数年、県の施策を受け、本市で家庭学習の充実を図ってきた成果がうかがえます。各校では、家庭学習の充実を図るために、「家庭学習システム」を決めたり、「生活記録表」「生活記録カード」「家庭学習の手引」や「家庭学習チェックシート」を活用したり、各自が自分の能力に合わせて家庭学習を行い、学年が進行するにしたがって自主的な学習に移行できるように工夫したり、「自主学習ノート」「家庭学習ノート」に取り組みせたりしています。さらに、本市では昨年度より教育活動の支援の一つとして「チャレンジ大月っ子」の取組を進めています。「家庭学習」に取り組むと同時に「家事労働」にも取り組むことで、「自己有用感」の醸成とともに生きた知識を学ぶことができることを期待しています。引き続き健全な子どもたちの育成のため、各家庭でも学校の取組に御協力ください。

さて、一方で県や全国と比較して課題も見えてきました。まず、学習面での課題は次のことが挙げられます。

- ① 小学校6年生においては、「国語 A」の「伝統的な言語文化と国語の特質」において、平均正答率が県平均を下回っています。特に、「敬語の使い方」や「漢字の書き取り」で正答率が低くなっています。
- ② 小学校6年生においては、「国語 B」で「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」について平均正答率が県より下回っています。
- ③ 小学校6年生においては「算数 A」において、グラフや百分率に関する設問の平均正答率が県の平均正答率より下回っています。
- ④ 小学校6年生の無回答率(設問に対して無回答の児童生徒の比率)は、「国語 B」では「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」において記述で回答を求めるところが県平均より高くなっています。同様に「算数 B」でも「設問の意図を理解したうえで、根拠を明確にして記述する」設問で無回答率が高くなっています。「国語 A」では「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」「学年別配当漢字表に示されている漢字を文の中で正しく使う」という設問で無回答率が県平均より高くなっています。「算数 A」では、図形やグラフ、百分率に関する設問に対しての無回答率が県平均より低くなっています。

次に、生活状況の面での課題も挙げられます。

- ① 「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることはあるか」という問いに対して、県平均とほぼ同等であるものの、小学校6年生は肯定的な回答が51.6%、中学校3年生では41.5%の比較的低い段階にとどまっています。

今回、小学校で県の平均正答率をやや下回った「伝統的な言語文化と国語の特質」に関わっては、代



表的な俳句やことわざ・故事成語、慣用句、古文等に触れることや、敬語の使い方、手紙や招待状等の形式を理解させる指導を取り立てて行い、ここで得た知識を学校生活のさまざまな場面で転化して、また機会をとらえて指導することが大切だと思われます。漢字力を培うためには、読書のさらなる推進や新聞を読ませたり、活用させるための工夫をしたり、朝学習等で取り立てて学習したりすることが大切です。また、辞書を手元に常に用意させ、必要な時に間髪入れず調べさせて

定着を図ったりする指導を国語科のみならず、社会科等の他教科でも行っていくことで漢字力は向上していきます。さらに、語彙を増やしたり、理解を深めたりするために、「読む」ことだけでなく、書いたり説明したりする機会を増やすことも有効です。各学校で取り組んでいる「話し合い活動を通じた学び合い」をさらに充実させ、自分の考えを説明したり文章に書いたりする力を高めることが求められています。

本市の小学校6年生と中学校3年生は、例年と同様、記述式解答に苦手傾向があります。（これは県内・全国的にも同様の傾向です）各校ともに、学習の系統性を考え、より上学年への学習内容のつながりを意識したり、子どもが主体的に考え、話し合うことを中心に据え自力解決の時間を確保したり、ペア学習や小グループでの話し合いを重視したり、課題解決学習をより多く取り入れたり等々の授業改善を行っていたり、「朝学習」として基礎的・基本的内容を繰り返し学習する（読書の時間等も含まれている）時間を設定していたりしますが、その充実をなお一層図っていく必要があります。あわせて国語や算数の問題で知識の活用力が低い傾向がみられたことから、文章の読解力向上が課題の一つになっています。新聞を活用した指導の工夫は、そのための有効な手立てとなることと思います。

市内各校では、それぞれの課題を克服するための独自の取組がありますので、それも見ていただきたいと思います。各校が自ら策定した指導方法改善策に基づき、子ども一人一人を大切に、きめ細かな指導を実現しようと、努力しています。

大月市教育委員会としても、今年度も夏休みを利用した学習支援（基礎学力の定着と学習意欲の向上）の場として「大月サマースクール」を実施しました。多くの子どもたちが、学力向上に向け真剣に、意欲的に学習する姿が見られました。また、昨年度から「大月っ子学習サロン」を平日の放課後に実施し、日頃の学習課題に対応する取組が続けられています。各校ともに少しずつ軌道に乗り成果を上げつつあります。これらの取組や、まだまだ改善の余地がある家庭学習の確立と充実に向けての取組を、各学校に引き続き働きかけて、本市の子どもたちの学力の向上を継続的に図り、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことができる子どもたちを増やしていきたいと考えています。



さらに、本市の教育施策のキーワードである「ふるさと教育」のより具体化とその実践、各校相互の学びあいや情報の伝えあいを組織していき、ふるさと大月に関心を持ち、よりよい「ふるさと」にするためには、自分には何ができるかといった視点を子どもたちの中に醸成していく取組を推進し、各校の支援をしていきたいと考えています。

これからも、本市の子どもたちのよりよい成長のために、保護者及び地域住民の皆様から忌憚のない御意見をいただき、また温かく支えてくださいますようお願い申し上げます。

